

第2章 令和元年中における自殺の概要

1 総数(表1関係)

令和元年中における自殺者の総数は20,169人で、前年に比べ671人(3.2%)減少した。
性別では、男性が14,078人で全体の69.8%を占めた。

2 年齢階級別自殺者数(表2関係)

「50歳代」が3,435人で全体の17.0%を占め、次いで「40歳代」(3,426人、17.0%)、「70歳代」(2,917人、14.5%)、「60歳代」(2,902人、14.4%)の順となっている。

3 職業別自殺者数(表3関係)

「無職者」が11,345人で全体の56.2%を占めて最も多く、次いで「被雇用者・勤め人」(6,202人、30.8%)、「自営業・家族従業者」(1,410人、7.0%)、「学生・生徒等」(888人、4.4%)の順となっており、この順位は前年と同じである。

4 原因・動機別自殺者数(表4関係)

原因・動機が明らかなもののうち、個々の要因別にみると、その原因・動機が「健康問題」にあるものが9,861人で最も多く、次いで「経済・生活問題」(3,395人)、「家庭問題」(3,039人)、「勤務問題」(1,949人)の順となっており、この順位は前年と同じである。

注)自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きている。

注)遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を3つまで可能としているため、原因・動機特定者の原因・動機別の和と原因・動機特定者数(14,922人)とは一致しない。